

氏 名	新 谷 舞
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博甲第 4056 号
学位授与の日付	平成22年 3月25日
学位授与の要件	医歯学総合研究科機能再生・再建科学 専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文題目	The effect of service dogs on the improvement of Health-Related Quality of Life (介助犬による健康関連QOL向上の効果)
論文審査委員	教授 土居 弘幸 教授 荻野 景規 准教授 安井 耕三

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

介助犬は肢体不自由者の日常生活動作を介助するよう訓練された犬である。我々は、介助犬による QOL 向上を評価することを目的として SF-36v2 による健康関連調査を行った。対象は国内の介助犬使用者 10 名とし、対照群(介助犬を持たない障害者群)は、年齢・疾患・障害等級・ADL 自立度等を、介助犬使用者群と同等になるよう設定した。介助犬使用者群では SF-36v2 の各項目のうち、心の健康(MH)と日常役割機能(精神)(RE)の 2 項目、および精神的健康を表すサマリースコア(MCS)において国民標準値を超える得点が得られた。また対照群との比較では、身体機能(PF)と日常役割機能(精神)(RE)の 2 項目において、介助犬使用者群のほうが有意に高かった。これらの結果から介助犬使用者では精神的な側面の QOL が高いこと、日常生活動作を行う上での身体的・精神的負担感の減少がもたらされていることが示唆された。本研究により介助犬の機能的効果と精神的効果が示された。

論 文 審 査 結 果 の 要 旨

本研究は、全国で 48 名の介助犬使用者の中で、10 名の介助犬使用者に対し、日常役割機能評価、精神的評価を疫学的に行ったものである。先行研究では、記述的な内容の論文が殆どであったが、疫学的な分析によって介助犬の効果を定量的に示したことは評価される。症例数が少ない難点はあるが、今後の介入研究に期待したい。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。